

# 価格競争 原発頼み

四月からの電力小売りの全面自由化を前に、関西地方では関西電力より安いとうたう「新電力」が現れている。関電にとって原発の再稼働は、競争力を取り戻す頼みの綱になっている。


「最大5%割引き」。大阪ガス（大阪市）は関電との価格差を強調する電気プランを引っ提げ、一月から事前申し込みをスタートさせた。主軸にするのは都市ガスとのセット販売。広報部の山根隆宏課長は「初年度はガス顧客約七百万戸の約3%に当たる二十万戸に電力販売をしたい」と意気込む。自社発電所の増強方針も示しており、攻めの姿勢は鮮明だ。

東京電力（東京都）も今月、関西管内での電力販売を始めると表

## 「新電力」に関電対抗

明。四月を前に関西では、電力の価格競争が熱を帯びてきている。

現在の関電の電力料金は消費者には「高い」とみられている。二〇一一年三月の東日本大震災以降、福井県内にある関電の原発十基（その後、二基の廃止決定）は次々と定期検査に入るなどして停止。火力発電の比率を増やした結果、燃料費などが経営を圧迫し、家庭向け電力料金を二三年五

 電力小売り自由化 大手電力が独占してきた電力小売りを自由化する規制緩和策。4月からは家庭や商店も契約先を自由に選べるようになる。2000年から工場、オフィス、デパート、中小ビルなどと段階的に自由化範囲を拡大してきた。

月に平均9・75%、一五年六月〜十月に、さらに同8・36%引き上げていた。

既に自由化されている企業などの大口消費者市場では、「関電離れ」がじわりと進む。大阪府は一五年度から公立高校や府出先機関の電力契約を入札制に移行。二百四十五施設すべてで新電力が受注し、年間約三億円の経費削減になったという。近畿経済産業局によると、管内の同市場では10・3%を新電力が占める。

関電の電気料金の値下げは、高浜原発3、4号機が本格運転した後の四月以降になる見通し。その後、大飯3、4号機（おおい町）が再稼働できれば「もう一段の値下げも検討する」（香川次朗副社長）という。新電力との価格競争は、原発にかかっている実態がくつきりと見える。

（尾嶋隆宏）